

教職支援室便り (6月号)

令和4年 6月10日 (金)
文責：教職支援室 曾我文敏
☎0985-20-4808

教員採用選考試験 (第一次試験) 近づく

教員採用選考試験 (第一次試験) が近づいてきました。すでに、全国各自治体の実施要項等が公表され、6月下旬から7月下旬にかけて、第一次試験が行われます。九州各州市の自治体では、7月9日 (土)、10日 (日) に実施される予定です。コロナウィルスの影響も心配されますが、受験者の皆さんには、目標に向かって全力で取り組んでほしいと思います。

なお、九州各州市及び本学の学生の皆さんが受験する自治体の、校種等、採用予定数、一次試験の内容について下欄に掲載します。

自治体	校種等	採用予定数	一次試験の内容
宮崎県	小学校	135名	筆記試験「教職教養、教科専門」 実技試験「各校種英語受験者：英語リスニング」 「小学校：体育実技」 ※小学校：特別支援10名：体育5名
	小学校英語	5名	
	中学校英語	11名	
	高等学校英語	5名	
大分県	小学校	200名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	20名	
長崎県	小学校	260名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語会話テスト」
	中学校英語	13名	
福岡県	小学校	660名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	55名	
福岡市	小学校	294名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
	中学校英語	21名	
北九州市	小学校	140名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	9名	
鹿児島県	小学校	285名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
	中学校英語	23名	
佐賀県	小学校	190名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	15名	
熊本県	小学校	180名	筆記試験「教職教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	11名	

熊本市	小学校	165名	筆記試験「教職教養、教科専門」 実技試験「英語リスニング」
	中学校英語	11名	
沖縄県	小学校	220名	筆記試験「教職教養、一般教養、教科専門」
	中学校教諭	105名	
岡山県	中学校英語	16名	筆記試験「教職教養、教科専門」
鳥取県	中学校教諭	65名	筆記試験「教職教養、教科専門」 実技試験「英語科技能・実技試験」

第一次試験は、筆記試験を中心に行われますが、その内容には、「教職教養」、「一般教養」、「教科専門」などの分野があります。また、自治体によっては、一次試験から面接試験、論文試験等を実施するところもあります。参考として、筆記試験の概要を紹介します。

教職教養

教職教養の試験では、教職に対する基礎知識が問われます。具体的には、教育法規、教育方法、教育課程、学習指導要領、教育心理学、教育史、道徳教育、人権教育、特別支援教育、インクルーシブ教育、生徒指導、中央教育審議会の答申、文部科学省等の通知文・報告書などの知識です。

一般教養

一般教養の試験では、国語、数学、理科、社会、英語、芸術、体育に関する問題、情報処理に関する問題、受験する自治体に関係する問題など、出題範囲は多岐に及びます。したがって幅広い見識が必要になります。

教科専門

教員の適性の一つとして、「専門性」が重視されています。筆記試験の中でも、教科専門の配点はウエートが高く、専門で高得点をマークすることが、合格ラインを突破する基準となります。教科専門は、その科目の知識と学習指導要領、指導法等を問う問題が出されます。教科の知識、指導力などが問われます。

論文試験

採用試験における論文は、大学入試の論文などと同じように考えることはできません。採用試験の論文は、論理的な論理性に加えて、「熱意」や「思い」を込めることも求められるからです。留意点としては、①序論・本論・結論の3段構成で書くこと、②テーマに対する具体策を書くこと、③評論家ではなく教員の立場で書くこと、④「書く面接」と意識し、使命感や情熱を込めて書くこと、などがあります。論文のテーマとしては、教育問題に関して幅広く出題されます。

388の面接試問例の分析（整理）：その4

本年3月号から、教員採用選考試験における面接試験の重要性を踏まえ、これまで教職特別講座（旧：勉強会）で活用した、388の面接試問例の分析（整理）資料を掲載しています。面接試験では、人物を評価するために、様々な角度から面接試問が行われます。受験者の皆さんは、自分のよさを十分に表現できるよう、多くの試問例を活用して演習をすることが重要です。

今回は、先月号の「5教員としての資質・能力に関すること、6人柄・性格等に関すること、7コミュニケーション力に関すること」の続編として、「8学習指導力・授業力に関すること、9学級経営に関すること」について、388の試問例の中から、各10問を掲載します。

8 学習指導力・授業力に関すること

- 1 授業力の向上に、どのように取り組みますか。
- 2 よい授業の条件を、3つあげてください。
- 3 「学力とは」と問われたら、何と答えますか。
- 4 「分かる授業とは」と問われたら、何と答えますか。
- 5 授業において、ICTをどのように活用しますか。
- 6 遠隔授業のメリットは、何だと思えますか。
- 7 自分にしかできない授業をするために、どのような研修に取り組みますか。
- 8 担当教科（例・英語）以外で、指導できる教科は何ですか。
- 9 分かりやすい授業であるかどうかを、どのように判断しますか。
- 10 児童生徒の学力差に対して、どのように対応しますか。

9 学級経営に関すること

- 1 学級担任として、どのような学級をつくりたいですか。
- 2 子どものよさを、どのように把握しますか。
- 3 学級経営が充実する条件を、3つあげてください。
- 4 学校行事を、学級経営にどのように生かしますか。事例をあげて述べてください。
- 5 学級経営力のある教師とは、どのような教師だと思えますか。
- 6 学級のスローガンをあげてください。
- 7 学級のスローガンをつくる時、どのようなことに配慮しますか。
- 8 子どもたちにどんな夢を与えたいですか。
- 9 児童生徒の心のケアで、大切にしようと思っていることは何ですか。
- 10 放任することと、自主性を尊重することは、どこが違うと思えますか。

道徳の教科化に思う！（シリーズ61）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、「豊かな心を育む教育活動の創造～道徳教育（道徳科）と福祉教育（福祉体験活動）の関連を図る中で」をテーマに、その2として「道徳授業を体験活動に生かす取組」等についてまとめました。

なお、今回は、その3として「体験活動を道徳授業に生かす取組」について掲載する予定です。

豊かな心を育む教育活動の創造 ～道徳教育（道徳科）と福祉教育（福祉体験活動）の関連を図る中で～

◇ 道徳科（道徳授業）と福祉体験活動の関連を図った指導 道徳授業を体験活動に生かす取組

1 基本的な考え方（学校と地域との連携の中で）

- ・道徳授業と体験活動が連動する指導計画を立てる。（体験活動を目的化しない。）
- ・道徳授業での学びを基に体験活動に取り組み、効果的に豊かな心を育てる。
- ・道徳授業の充実は、体験活動の充実につながる。
- ・体験活動が実施される前に、その内容を踏まえ意図的・計画的に道徳授業を行う。
- ・道徳授業に活用する教材は、体験活動の内容につながるものとする。

2 小学校実践例

道徳授業「教材・心の信号機（第4学年 学研）」と体験活動「アイマスク体験」を関連付けた指導

(1) 「心の信号機」の内容

ある日、主人公は信号機のある横断歩道で、目が不自由な男の人と出会う。その人は、三度信号が変わってもそのまま立っている。主人公は、気になってしばらく様子をうかがっていたが、信号が変わり横断歩道を渡り始める。渡っているときも、その人を心配する主人公であったが、なかなか行動に移せない。更に、横断歩道を渡った後には、助けようと、また引き返すが、声をかける勇気がどうしてもわいてこない。しかし、主人公は決心して、その人に近づき声をかける。「おじさん、手を取りまじょうか。あちらに行くんでしょ。」

(2) 指導計画の概要

① 道徳授業「心の信号機」の実施

視覚障がい者の方の日常生活における困難性を取り扱った教材を活用し、目が不自由であることの大変さや苦労などに触れながら、周囲からの温かい支援の大切さを感じ取る。

道徳授業で学んだ心「親切、思いやり」を基に、より深く思いやり（支援）の大切さを理解するために、体験活動に取り組む。

② 体験活動「アイマスク体験」の実施

実際に、目が不自由であることの大変さや苦労などを体感した上で、道徳授業を振り返り、周囲からの温かい支援の大切さを、改めて理解する。

道徳授業と体験活動を関連付けた学習を通して、より深く思いやり（支援）の大切さを理解し生活に生かせるようにする。

③ 道徳授業と体験活動の振り返り

自他の生き方を認め、自他を尊重する心（共感できる思いやりの心）を温める。

今後、出会うであろう様々な場面において、適切な行動が取れるように身構えをもつ。

(3) 授業「心の信号機」の【ねらい】と【主な発問】

① ねらい B- (6)「親切、思いやり」

助けたいと思ってはいても実行に移せない人間の弱さに気付かせながら、思いやりのある行為を実践するためには、そのときの状況を考えた決断力が大切であることが分かり、誰に対しても心のこもった言動で接しようとする態度を育てる。

② 主な発問例

主人公の弱さ（迷い）や強さ（決断）について、みんなで考えていきましょう。

○ 基本発問

信号が変わっても立ったままの男の人を見ていたとき、横断歩道を渡っているとき、助けてあげようと引き返したとき、主人公はどんなことを考えていたでしょう。

・補助発問

それぞれの考えの中には、どんな気持ちがあるのでしょうか。

・補助発問

そんなに気になるのであれば、すぐに声をかけてあげれば良いと思いませんか。

・補助発問

主人公は、勇気がないと思いませんか。

○ 中心発問

思い切って声をかけたとき、主人公の心の中にはどんな気持ちが込み上げていたでしょう。

・補助発問

主人公を突き動かしたものは何だったのでしょうか。

・補助発問

男の人の後ろ姿を見送るとき、主人公はどんなことを心の中でつぶやいていたでしょう。（男の人は、どんな気持ちでいたでしょう。）

体験的な活動「役割演技」

※ 男の人役の児童は、実際にアイマスクをして、横断歩道に見立てた所を歩いてみる。その後、役割演技を行う。

Q. 思い切って声をかけたとき、主人公の心の中にはどんな気持ちが込み上げていたのでしょうか。主人公になって、男の人に言ってみましょう。

【主人公役の言葉】

「おじさん、手を取りましょうか。あちらに行くんですよ。」

Q. 男の人は声をかけられたとき、どんな気持ちだったのでしょうか。男の人になって、主人公に言ってみましょう。

【男の人役の言葉】

「ええ、ええ。どうもありがとう。」

※ 近日行われる福祉体験活動では、全員がアイマスク体験をすることを伝える。